

二戸農業改良普及センター  
だより

第 83 号

平成 31 年 1 月 25 日 発行

二戸農業改良普及センター

二戸市石切所字荷渡 6-3

TEL: 0195-23-9208

FAX: 0195-23-9387

# かしおぺあ

URL : [http://www.pref.iwate.jp/kenpoku/nino\\_noukai/index.html](http://www.pref.iwate.jp/kenpoku/nino_noukai/index.html)

(二戸農業改良普及センター)

e-mail : [CE0027@pref.iwate.jp](mailto:CE0027@pref.iwate.jp)

平成も残りわずかとなり、今年度は新元号がスタートします。新年度の営農に向けて準備を進めて行きましょう。今回で二戸農業改良普及センターだより「かしおぺあ」は本年度3回目の発行となります。今回は下期の活動等を中心に紹介します。

## 下期の活動ハイライト ～果樹のブランド化～



### 『冬恋収穫体験』 11月下旬～12月上旬

今年度で5年目を迎えた「冬恋収穫体験」は11/24にいわて生協の組合員、11/25にIGR観光ツアー、12/5に川徳友の会員対象に計3回行われ、のべ72名が参加しました。

参加者は実際に樹から冬恋を収穫したほか、12/5の収穫体験では食の匠による郷土料理「だまこ汁」の実演(右写真)も行われ、充実した体験となりました。



## 効率化を追求し機械を有効活用した大規模経営を研修

～岩手県農業農村指導士協会県北ブロック現地研修会を開催～

（10月5日 記述者 昆野善孝）

二戸・久慈地方の農業農村指導士で構成する岩手県農業農村指導士協会県北ブロック（会長平裕一、会員数44人）は、9月18～19日に一戸町を会場に研修会を開催し、会員や関係機関合せて32名が参加しました。

始めに、葉たばこからとうもろこしへ転換し、10haもの栽培に葉たばこ用機械を活用、インターネットで販路を拡大している坂松百合子氏の取組みを研修しました。

次に、葉たばこ作業の機械化や作業工程の見直し、冬期の雇用者確保のために促成アスパラガスやたらの芽を取入れている坂本亮太氏の取組を研修しました。

続いて、海外研修生を活用し、水稻コンバインを改造してキャベツのオリジナル収穫・調製機を造り、収穫からコンテナ詰めまでの一連の作業を圃場内で行っている山下正勝氏の取組を研修しました。

参加者は、効率を最大限迫及し、農業機械を有効活用している三者の取組に感心すると共に、山下氏のダイナミックな営農に驚嘆していました。



## りんどう生産者の若手・新規・トレーナーが集合！

～りんどう若手・新規生産者と産地づくりトレーナー合同視察研修会の開催～

（11月9日 記述者 赤坂志保）

この度、二戸地域のりんどうの若手・新規生産者と、技術支援などを行う生産者である産地づくりトレーナーを対象とした合同の視察研修会を二戸地方農林水産振興協議会主催で開催しました。

本研修は、参加者の技術研鑽と相互交流を目的とし、初めて開催したもので、生産者15名関係機関4名が参加しました。

当日は、奥州市衣川地域のりんどう生産者2戸の圃場と作業場を視察し、他地域の導入品種の状況や作業場における省力化の取組などを研修しました。

参加者は、トレーナーを中心に栽培様式や導入品種について積極的に質問していました。また、若手や新規生産者は、作業場の機械、開花中の品種や圃場内を他参加者と意見交換しながら、熱心に見学していました。

日頃は、市町村を越えた交流が少ないことから、普及センターでは、今後も管内のりんどう生産者の情報共有の場を設けていきたいと考えています。



## 他地域の栽培から学べ！

～群馬県の促成アスパラガス栽培事例を視察～

(12月12日 記述者 赤坂 尚生)

J A 新いわて奥中山促成アスパラガス専門部では単収、販売額の更なる向上を目指して、11月24日に群馬県の栽培事例視察研修を開催しました。

群馬県沼田市の促成アスパラガス株養成圃場を訪れた参加者は、視察先の部会長から肥培管理、防除を始めとした栽培のポイントに関する説明を受けました。その後、質問が積極的に出され、約2時間の研修時間をいっぱいに使った意見交換が行われました。

意見交換の中では、「養成株の大きさに驚いた」、「茎葉のボリュームがあり非常に立派な株だ」といった声が上がっていました。また、現地生産者の単収の高さに驚きの声が上がっていました。

一方で、「奥中山の方が太い規格のものを出荷している」という意見や「出荷時期が早くてうらやましい」という視察先の部会長の話を聞いて、モチベーションが向上した様子でした。

普及センターでは促成アスパラガスの生産拡大に向けて、今後も支援していきます。



## 煮干しと昆布の出汁が利いてる「食の匠」のだまこ汁!!

(12月17日 記述者 内田 愛美)

11月26日、カシオペア食の技研究会は一般消費者を対象に郷土料理「だまこ汁」講習会を九戸村で開催しました。

二戸地方の食の匠で組織する同会が、開催方法を広域から市町村単位に見直し、3年ぶりに実施したものです。

一般消費者9名、食の匠7名、関係機関4名が参加し、食の匠と交流しながら「だまこ汁」のほか「山栗とささげ豆のおふかし」「冬野菜のサラダ3種」を実習しました。

「だまこ汁」はきのこや野菜たっぷりの汁にご飯を団子状にした「だまこ」が入った郷土料理です。

参加者からは「だまこ汁に興味があり参加した。家でも簡単に作れそう」、「母親が余ったご飯と小麦粉でひつつみのようにして食べさせてくれたことを思い出した、なつかしい」などの感想が聞かれ、郷土料理への理解を深め、食の匠と交流する良い機会となりました。

同会では、1月にも一戸町での講習会を予定しており、地域の食文化の次世代への伝承が期待されます。



## 平成 30 年度に認定された農業農村 指導士および食の匠の紹介

二戸地方から軽米町の上山誠氏が農業農村指導士、軽米町の鶴飼久子氏が食の匠に認定されました。両氏とも今後の更なる活躍が期待されます。

農業農村指導士とは、地域農業発展と農村地域活性化に意欲的に取り組んでいる優れた農業者を、知事が認定するものです。また食の匠とは、岩手の食文化の発信活動を促進し、地域活性化を促すために、永年培われてきた郷土料理等の優れた技術を有する者を、知事が認定するものです。



上山 誠氏（軽米町）

主な経営部門：野菜（長いも、ごぼう他）



鶴飼 久子氏（軽米町）

認定料理：「手造り豆腐の煮しめ」

## 協同農業普及事業 70 周年 記念祝賀会が盛大に行われました

平成 31 年 1 月 18 日、盛岡市で協同農業普及事業 70 周年記念祝賀会が盛大に行われました。これは本県の協同農業普及事業が開始された昭和 23 年から今年で 70 周年を迎えたことを記念して開催されたものです。当日は現職に加え普及 OB、関係機関、農業者組織の代表等約 180 名が参加しました。参加者一同これまでの歩みを振り返る一方、新しい時代に向けて本県農業・農村の更なる発展を目指して取組んでいく決意を新たにしました。



農業改良普及の歌を熱唱する現役と OB 普及職員